

投稿症例

1次診療病院における嘔吐治療 —動物用制吐剤の有効活用法—

奥田英令（大阪市住吉区・アニウェル動物病院 院長）



Key Points

- ① 嘔吐や食欲不振を伴う上部消化器疾患においては、在宅療法の治療プログラムに、内服薬の利便性を重視する必要もある。
- ② 動物用制吐剤「ボミットバスター錠」は猫の嗜好性がよく、1日1回で使用できるため、利便性が高い。
- ③ 消化性潰瘍薬プロトポンブ阻害剤は、H₂ブロッカー剤に比べ、胃酸分泌抑制作用が強く、持続性も高いことから、1日1回で使用できる可能性が高い。

はじめに

猫の上部消化器疾患の治療において、当院では医療用医薬品を中心に、制吐剤とH₂ブロッカーなどの薬剤を併用した治療プログラムを行ってきた。過剰興奮などの副作用は想定範囲内で、治療成績はある程度一定の成果を得ており、適切に管理できていた。一方、これまで少なかった動物用の消化器薬だが、近年、「プロナミド錠」や「ボミットバスター錠」が発売された。しかし、治療プログラムの変更には戸惑いも多く、そのメリットとデメリットも投与経験が少ないなかでは不明瞭な面もあった。そこで今回、当院の治療プログラムに動物用医薬品「ボミットバスター錠」（メトクロプラミド製剤）の使用を検討したので、参考にできれば幸いである。



プロフィール

症例：スコティッシュ・フォールド、去勢済雄、1歳齢
主訴：数日前から1日数回、嘔吐を繰り返す。また、嘔吐物に血が混じるとのことで来院。

検査

触診・視診：全身に異常は認められなかった。
血液検査：とくに異常は認められなかった。
X線検査：食道下部に貯留物もしくは空気らしきもの、また、小腸と直腸にガスが認められたことから（図1）、逆流性食道炎を併発した急性胃腸炎と診断した。

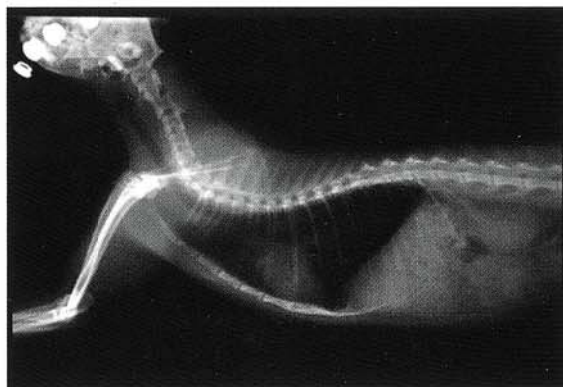


図1 X線画像